

文部科学省 COC+R事業 とくしま創生人材・企業共創プログラム

事業のポイント

令和2年度に文部科学省の大学による地方創生人材教育プログラム構築事業(COC+R事業)に「とくしま創生人材・企業共創プログラム」が採択され、4年目となる令和5年度は、プログラムで導入したインターンシッププログラムの地域への定着を図り、県内の関係者らが参加する「徳島県のインターンシップについて協議する小会議」を設置するなど、事業終了後のプログラム継続に向けた検討を進めている。

事業の概要

1. 事業の目的・今後の展開

我が国の最重要課題である地方の人口減少問題については、これまで国内で克服に向けた様々な施策が取り組まれてきたが、少子高齢化による急激な人口減少とともに、東京圏への一極集中の傾向が継続している。地方への若者の定着を図るためには、地方国立大学は魅力ある学びの場をつくるとともに、地域の中核的産業の振興と、これを担う実践的な専門人材の育成を推進することが重要である。(令和元年12月『第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」』) 本事業の目的は、地元企業と連携した新たな教育プログラム“とくしま創生人材・企業共創プログラム”を推進することで、地域を担う質の高い人材を大学が企業等と協働して育成し、それによって、県内企業等の魅力・経営の向上と県内への人材定着の促進という好循環を創出することにある。

事業代表者・連絡先

COC+R事業事務局
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1 地域創生・国際交流会館3階
tel: 088-656-9885 fax: 088-615-4477
e-mail: coc-plus-r@tokushima-u.ac.jp

徳島県内で将来性・発展性・先進性を備えた企業群と連携し、これらの企業の人材ニーズに対応した基礎力育成を目指す授業科目群と企業等との関係性を構築する課題解決実習を開設し、学生の資質形成と企業の採用力及び経営力の向上を同時に実現する教育プログラムを開発するものである。

2. 事業の取組状況

①参加校共同授業「徳島の魅力・徳島で働く」

徳島県の課題や将来のビジョン及び徳島県で働く・暮らすことについて、地域の識者から学び、地域づくりの方策を話し合うことで徳島の魅力と徳島でのキャリアプランへの理解を促す。受講生は、県内で活躍するリーダーや県内高等教育機関のOB・OGから徳島の課題・仕事・暮らしの魅力に関する講演、トークを聴き、グループワークで徳島の将来像を考え発表し、徳島県知事等から講評を受けた。[総受講者数149名(うち成績評価対象者67名(徳島大学23名/四国大学・四国大学短期大学部21名/徳島文理大学22名/阿南工業高等専門学校1名))、他高校生26名を含む28名が一般聴講生として参加]

②エクスターンシップ(地域企業を知る・読み解く)

将来、徳島県で働くことに興味ある学生に対し、大学入学の段階から出口となる県内企業の特徴、魅力、働き方、社会的責任等を知ること、これからの大学で必要となる学びを意識させる。履修生は、学内にて県内企業の経営者・若手社員と、グループ対話を繰り返し、社会人としての働き方や業種、業態等への理解を深めた後、最後に実際の職場にて1dayインターンシップを実施した。[参加企業・団体数:29機関、受講生数:85名(徳島大学72名、徳島大学大学院11名、徳島文理大学2名)]

③実践型インターンシップ

本授業では、企業や地域の抱える実際の課題の解決に向けて、履修生が参加企業・団体の職員をパートナーとしてチームで約半年間のプロジェクトに挑戦することで、学生と参加企業・団体双方の成長を図っている。

今年度は、企業等を受け入れ団体として企業等の課題解決に取り組む「経営課題型」のプロジェクトと、地域おこし協力隊等の地域リーダーを受け入れ担当として自治体が抱える地域課題に取り組む「地域課題型」のプロジェクトを実施し、学生と参加企業・自治体等の職員が協働で課題解決に取り組んだ。[経営課題型:参加企業等・5機関、受講者数・15名(徳島大学15名)/地域課題型:参加自治体数・5自治体、受講者数・20名(徳島大学20名)]

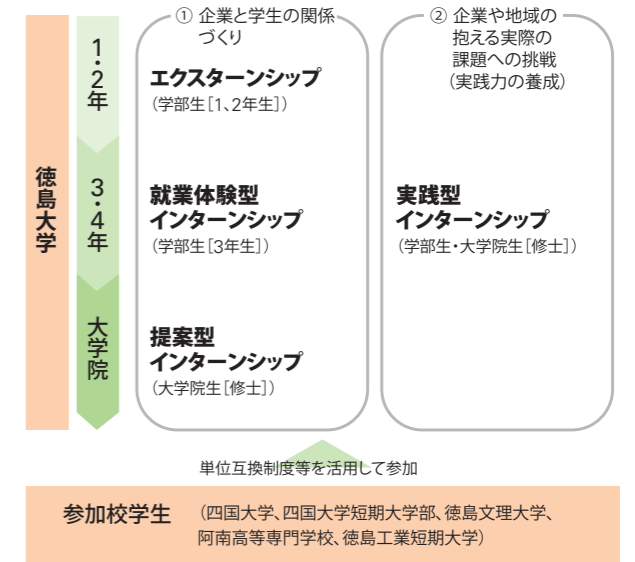
④就業体験型インターンシップ(UIJインターンシップ)

就職活動を控えた学生を対象とし、「その仕事に就く能力が自らに備わっているか見極める」ことを目的に、県内企業の提供する短期間のインターンシップ(就業体験)と大学の用意する事前事後学習を組み合わせたプログラムを令和4年度に試行的に導入し、令和5年度からは本格的に実施して受入機関・受講生の増加を図った。

また、このプログラムはCOC+R参加校の学生の他、徳島県内への還流促進に向けて、UIJターン志向のある県外大学生も受け入れるよう調整し、令和5年度は、徳島県の事業として移動経費等を支援する「UIJインターンシップ」としても実施し、学生が就業体験に取り組んだ。[受入企業・団体数:24機関、受講者数66名(徳島大学49名、徳島文理大学3名、UIJインターンシップ(県外大学生)14名)]

3. 参加校との連携

県内の参加校(四国大学、四国大学短期大学部、徳島文理大学、徳島工業短期大学及び阿南工業高等専門学校)と連携し、前述の参加校共同授業や実践型インターンシップ等の「地域学習・実習科目」、情報処理、マネジメント、デザイン・コミュニケーションの3分野からなる「基礎力育成科目」、簿記、会計学などの「資格取得サポート科目」で構成する教育プログラム(科目数:61科目)を設置し、単位互換を行える仕組みを整えている。これにより、受講を希望する参加校の学生誰もが他校のプログラム科目を受講し、自らの単位として認定することができるようになっている。



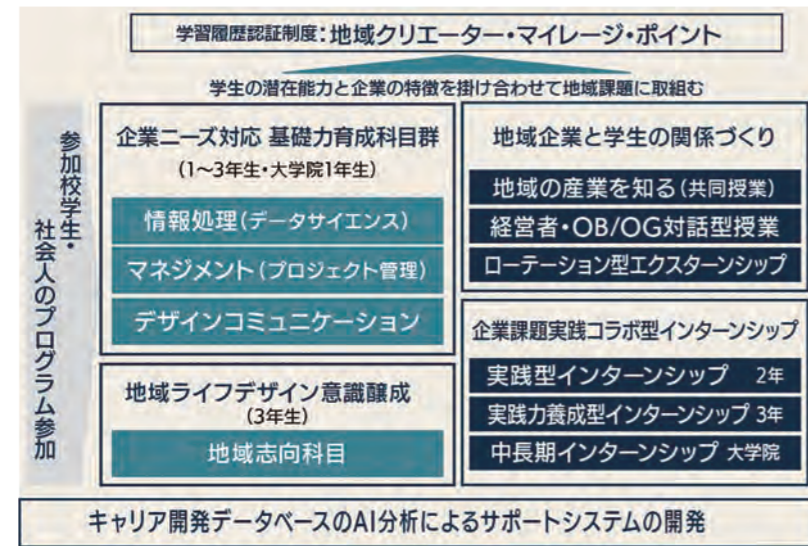
(図2) 事業におけるインターンシップ科目の構成

4. 事業実施による成果と今後の展開

令和4年度に産学協議会が「インターンシップ」の要件を提示したことで、これに準拠しないプログラムはインターンシップという名称で実施できないという考えが浸透しつつある。本事業では「就業体験型インターンシップ」のプログラムにおいて、企業に対するインターンシップの内容や学生へのPRについての相談受付や、事前・事後学習の提供、フィードバックの手法の提供等のサポートを行うことで、産学協議会の要件を満たすインターンシップを実施する県内企業の増進を図った。その結果、当該プログラムへの参加機関は、令和4年度の11機関から35機関へと増加した。

また、令和5年度は、こうした県内へのインターンシップの定着を図る取り組みに向けたステークホルダー間の連携促進を図り、徳島県関係部局、徳島労働局、経済団体、関連事業を行う民間企業、高等教育機関キャリア支援担当部局等が参加する「徳島県のインターンシップについて協議する小会議」を立ち上げ、これまでそれぞれの機関が独自に行ってきた県内企業と若年層(大学生)のマッチングの試みについての情報共有を進めながら、連携の可能性を探っている。

このような取り組みによって企業等との協働を促進しつつ、令和6年度はCOC+R事業終了後の体制を見据えた連携組織のあり方の議論を進めていくこととしている。



(図1) 事業概要図